

# 2022年12月期第2期四半期決算補足説明資料

2022年8月12日

株式会社HANATOUR JAPAN



東証グロース コード 6561

# Summary

**2022年12月期2Qは前年同期比184.9%増収**  
**経常損失 前期比+121百万円 最終損失 前期比+130百万円 損失圧縮**

## ホテル事業

**国内需要回復傾向 都道府県民割・地域割の活用**

⇒各ホテル ADR・稼働率 徐々に回復

**ホテルセンレン京都東山清水 ML解約・営業廃止の決定**

⇒12月 特別利益 724百万円 計上見込

## 外国人観光客の受入再開

### 旅行事業

**変異ウイルス、ビザ発行手続煩雑、自由行動の制限など**

⇒本格的な回復時期は不透明

### バス事業

**需要回復を見据え 北海道、九州 7月より営業再開**

## 2022年12月期2Q 実績サマリー

## 外国人観光客 受入再開するも本格的な回復時期は不透明

単位：百万円（百万円未満切捨て）

	2021/12		2022/12 前期比			
	2Q	構成比	2Q	差額	増減率	構成比
売上高	<b>196</b>	100.0	<b>559</b>	362	184.9	100
営業利益	△ <b>1,163</b>	△ 593.2	△ <b>984</b>	179	-	△ 176.1
経常利益	△ <b>1,100</b>	△ 560.8	△ <b>978</b>	121	-	△ 175.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ <b>1,108</b>	△ 565.2	△ <b>978</b>	130	-	△ 175.0
1株当たり当期純利益(円)	△ <b>101.83</b>		△ <b>77.93</b>			

## 2022年12月期2Q 損益計算書

経費節減の徹底 インバウンド需要回復を見据え各事業稼働増 変動経費増加

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2021/12		2022/12 前期比			
	2Q	構成比	2Q	増減	伸率	構成比
売上高	196	100.0	559	362	184.9	100.0
売上原価	139	71.0	137	△ 1	△ 1.4	24.6
売上総利益	56	29.0	421	364	641.4	75.4
販管費	1,220	622.2	1,405	185	15.2	251.5
うち人件費	290	148.0	311	21	7.1	55.4
営業利益	△ 1,163	△ 593.2	△ 984	179	-	△ 176.1
経常利益	△ 1,100	△ 560.8	△ 978	121	-	△ 175.1
親会社株主に帰属 当期純利益	△ 1,108	△ 565.2	△ 978	130	-	△ 175.0

## 売上原価

- ・バス事業：△12百万円
- ・ホテル事業：+ 8百万円

## 販管費

- ・旅行事業：△ 28百万円
- ・バス事業：+ 11百万円
- ・ホテル事業：+215百万円
- ▷稼働率増加による  
変動経費増+143百万円
- ▷金沢ホテル（開業費含む）  
+97百万円
- ・調整 他：△14百万円

## 営業外損益

- ・コロナ関連 助成金
- ▷前期：96百万円
- ▷当期：47百万円

## 特別損益

- ・前期
- ▷新株予権戻入 6百万円
- ▷店舗解約損 2百万円
- ・当期
- ▷固資産縮損 2百万円

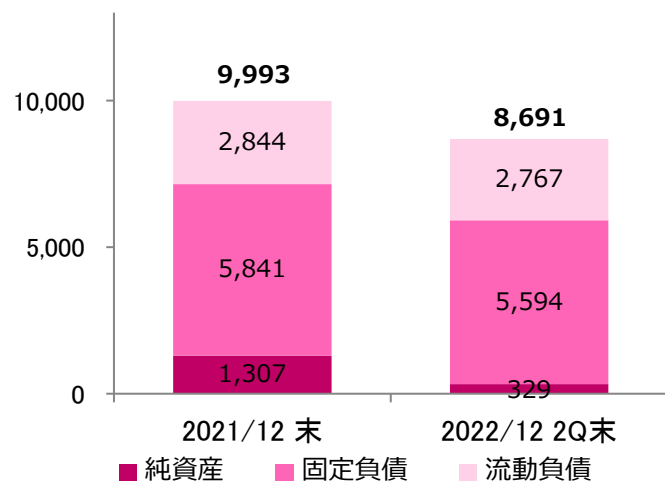
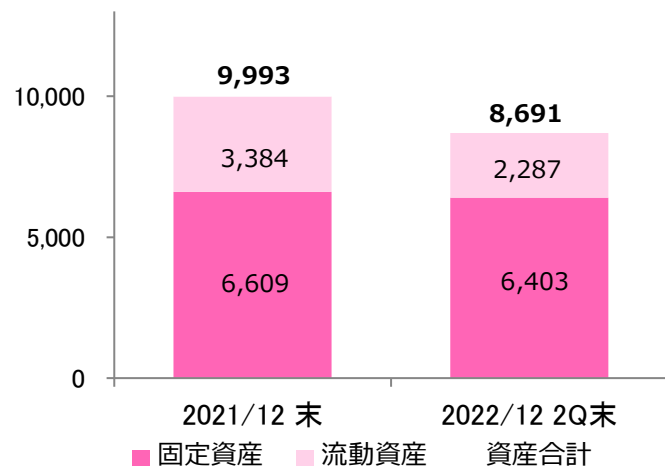
## 2022年12月期2Q セグメント別

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2021/12 2Q	2022/12 2Q	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅 行 事 業	売 上 高	17	42	25	143.9	7.5
	セグメント利益 利益率	△ 109 -	△ 77 -	31 -	- -	7.8 -
バ ス 事 業	売 上 高	6	29	22	318.6	5.2
	セグメント利益 利益率	△ 158 -	△ 135 -	22 -	- -	13.7 -
ホテル等施設運営事業	売 上 高	180	521	341	188.7	93.2
	セグメント利益 利益率	△ 767 -	△ 649 -	117 -	- -	66.1 -
そ の 他	売 上 高	11	15	4	40.1	2.7
	セグメント利益 利益率	△ 0 -	1 9.3	1 -	- -	△ 0.1 -
小 計	売 上 高	216	608	392	181.7	108.8
	セグメント利益 利益率	△ 1,035 -	△ 861 -	174 -	- -	87.5 -
調 整 等	売 上 高	△ 19	△ 49	△ 29	-	△ 8.8
	セグメント利益 利益率	△ 128 -	△ 122 -	5 -	- -	12.4 -
合 計	売 上 高	196	559	362	184.9	100.0
	営 業 利 益 利益率	△ 1,163 -	△ 984 -	179 -	- -	100.0 -

## 2022年12月期2Q 貸借対照表

単位：百万円（百万円未満切捨て）



流動資産		2,287 (△1,096)
■ 現金及び預金	1,749 (△1,186)	売上低迷のため減少
■ 売掛金及び 契約資産	116 (△26)	
■ 前渡金	168 (+2)	

固定資産		6,403 (△205)
■ 有・無形固資	5,161 (△201)	償却による減少、設備投資+19
■ 敷金保証金	1,225 (+5)	

流動負債		2,767 (△77)
■ 短期借入金	1,445 (△121)	返済による減少
■ 一年内返済長借	197 (△3)	
■ 未払費用	728 (+44)	ホリ稼働増加による経費増

固定負債		5,594 (△247)
■ 長期借入金	922 (△102)	返済による減少
■ リース債務	4,633 (△117)	

純資産		329 (△977)
■ 資本金	1,771	
■ 資本剰余金	1,716	
■ 利益剰余金	△2,986 (△978)	当期利益 △978

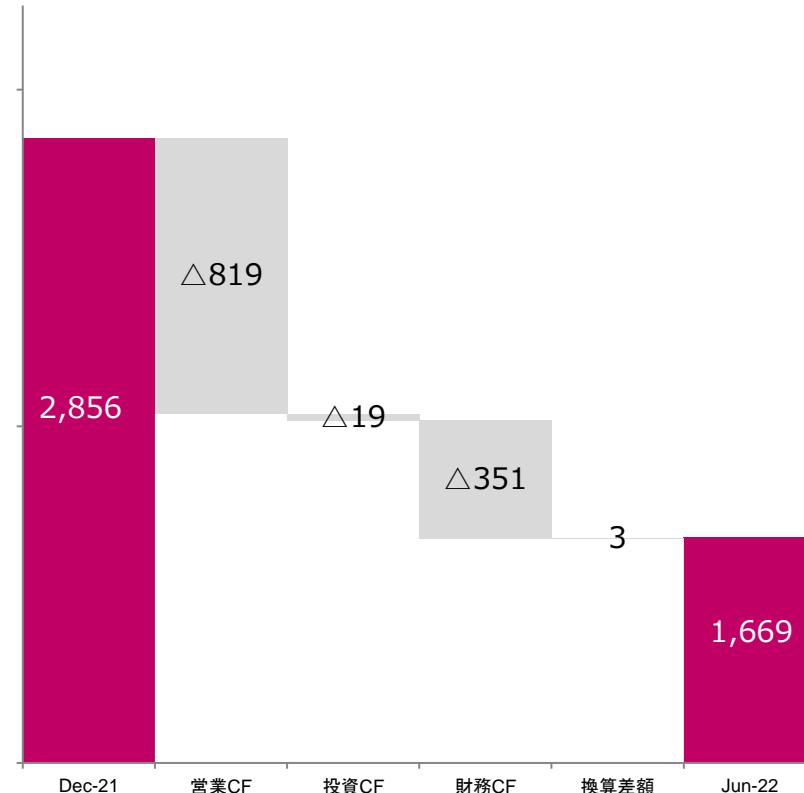
## 2022年12月期2Q CF計算書

## インバウンド回復時の需要獲得に向け各事業稼働増 営業Cashout増加

## CF計算書

(百万円)

単位：百万円（百万円未満切捨て）



※百万円未満切捨て

## 営業CF

△819

■ 営業損失	△984 + 償却費219 = △765
■ 営業債権債務	25
■ 利息の支払	△45

## 投資CF

△19

■ 敷金保証金	△5 大森ホテル賃料充当
■ 固定資産取得	△19 金沢ホテル開業準備投資

## 財務CF

△351

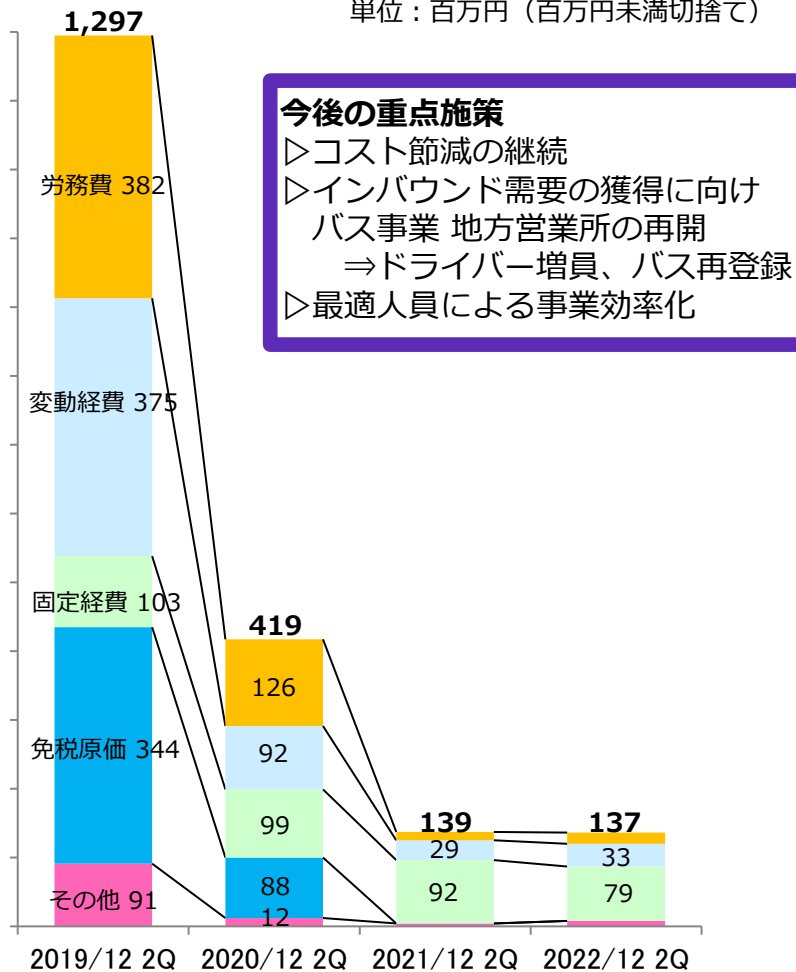
■ 短・長借入金	△227 新規借入	—
	返済	△277
■ 社債	△10	償還
■ リース・割賦債務	△114	返済

# 2022年12月期2Q コスト推移

人件費 経費の節減を徹底 ホテル事業を中心に稼働増加 ⇒ 変動経費増加

## 売上原価 4期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）

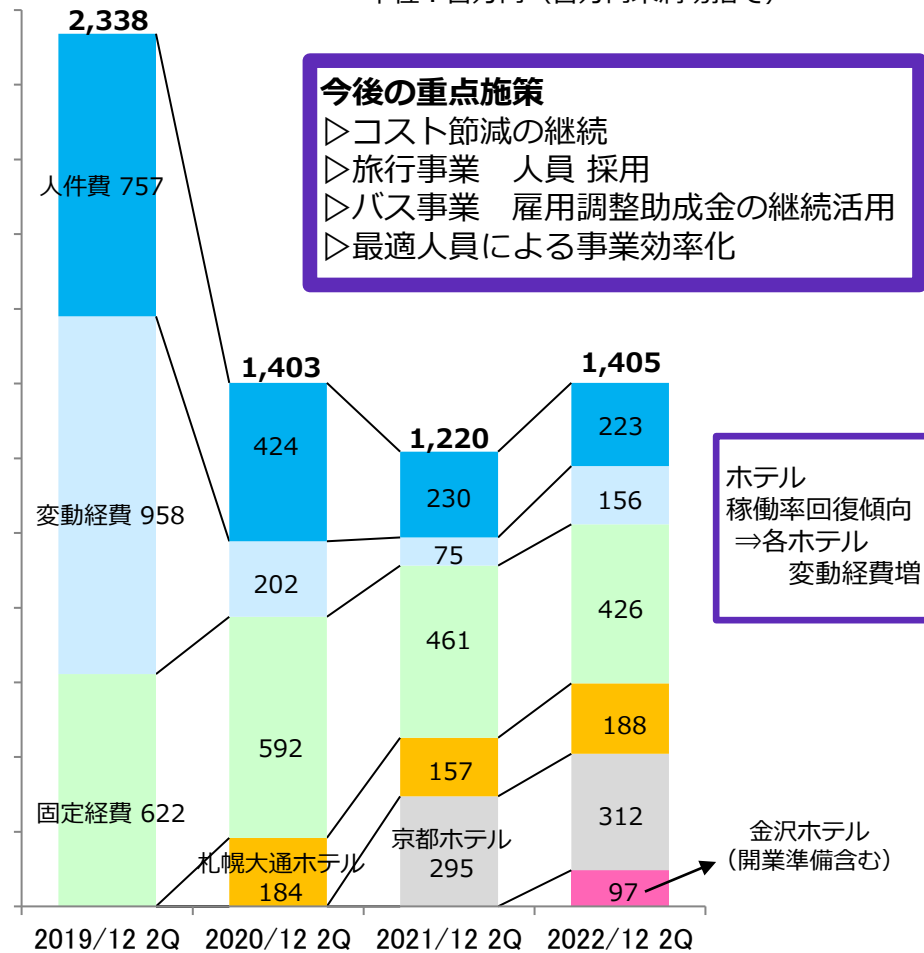


### 今後の重点施策

- ▷コスト節減の継続
- ▷インバウンド需要の獲得に向け  
バス事業 地方営業所の再開  
⇒ドライバー増員、バス再登録
- ▷最適人員による事業効率化

## 販管費 4期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）



### 今後の重点施策

- ▷コスト節減の継続
- ▷旅行事業 人員 採用
- ▷バス事業 雇用調整助成金の継続活用
- ▷最適人員による事業効率化

ホテル稼働率回復傾向  
⇒各ホテル  
変動経費増

金沢ホテル  
(開業準備含む)



## 2022年12月期 業績予想について

新型コロナウイルス感染症による観光産業への影響は、変異ウイルスの感染拡大により、収束時期は依然として不透明であり、業績予想の算定が困難な状況です。

従いまして2022年12月期の連結業績予想は未定とさせていただきます、影響額の算定が可能となった時点であらためて開示させていただきます。

## 2022年12月期 今後の重点施策

## 営業基盤の強化

## 経営効率化

## 需要回復を見据えた取組

## 旅行事業

- ▶ 営業拠点の選択と集中  
東京本社・韓国営業所・インドネシア

- ▶ インバウンド需要獲得に向けた取組み
  - パッケージ商品の企画・販売準備
  - 「Gorilla」海外有力サイトとのAPI連携推進  
(に加え取扱商材：ホテル・旅ナカ商材の拡充)
  - 営業人員の増員

## バス事業

- ▶ 営業拠点の拡大
  - 東京・大阪に加え北海道・福岡の再開  
⇒市場回復時期を見極め、雇調金を活用しつつ最小限の投資に抑制

- ▶ 北海道・福岡 営業再開
  - ドライバー増員・バス稼働準備（再登録）
- ▶ 国際便クルー送迎事業の拡大
- ▶ 国内AGTへの営業強化

ホテル等  
施設  
運営事業

- ▶ 3月開業「Tマークシティホテル金沢」  
従業員新規採用を抑制し他ホテルから応援
- ▶ 「ホテルセンレン京都東山清水」  
- ML解約、営業廃止の決定（12月引渡）

- ▶ 「全国旅行支援」開始を見据え企画商品開発
- ▶ インバウンド需要獲得に向けた取組み
  - 海外旅行エージェントへの営業強化
- ▶ 東京大森 航空会社クルーの宿泊誘致強化

## 財務体質の強化

## 金融機関、親会社へ継続した支援要請

- ▶ 借入契約、融資枠設定契約の継続

## 状況に合わせて資金調達の検討

# ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経理財務部

TEL 03-6629-4755

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>